

平成十三年三月に大阪の電鉄系のゴルフ場からデモ依頼があった。あるゴルフ場の支配人が個人のホームページでゴルフ場基幹システムについて意見を述べていた記事が担当者の目に留まり、インターネットで弊社を調べて電話してきた。記事の内容はインターネットと基幹システムを連動した予約業務の成果と今後の方針を述べたもので当時のゴルフ場業界全体の関心事であった。

インターネット予約は平成十年頃からあらゆる分野で急速に普及したがゴルフ場は山奥にあるケースが多いので通信インフラに問題がありホテルや旅館に比べて遅れていた。また、集客に苦勞していたゴルフ場にはポータルサイトでの集客が先行して進んでいた。また、ポータルサイトへの枠だしがインターネット化と思っていたゴルフ場も多くあった。そして、何よりもカタカナの名前と操作に苦勞しているパソコンを使つての予約と言っただけで管理職層が「うちのお客様は皆高齢でそんなの使う人はいない、それに、誰だかわからない人がプレーしたら会員様に迷惑がかかる」などの拒否反応により止めになってしまふケースが多かった。

インターネットはもともとアメリカの国防省の通信網であった。一つの基地に住所番号を付与し、その下に各人の番号を登録して通信をするごく単純な仕組みで、この基地にあたるものをプロバイダーと呼びそこにはデータを登録するサーバーが置かれる。これが網の目に繋がり瞬時に世界中のサーバーからデータを呼び出す検索をおこなう。この検索という機能が実に重大な事で、人類史上における道具の使用や火の発見と同じ位に大きな出来事であった。最近はこの検索の専門会社「グーグル」が急成長しているが、グーグルはあらゆる知識の分類を始めたと言われる。

ビジネスの世界では「B to B」「B to C」などのインターネット・システムが作られ会社組織や広告宣伝・セールスプロモーションなどを根本的に変えていった。そして、この変化に対応できない企業は市場から消えてしまったと言つても過言ではない。ゴルフ場の予約を例にとればそれは単に二十四時間いつでも予約が取れるようになると言う単純なものではない。インターネットでの予約は全て電子データとして記録されている。予約を入れた正確な時間、予約者の連絡先であるメルアド、選択された料金プラン、もし、初めての予約者であるならば「どんな趣味があるのか、よくゴルフするのは何曜日なのか、家族構成は、好きな色は、どのメーカーのクラブが欲しいか」などの貴重な情報を登録してもらうことまでも出来るのである。ゴルフ場の従業員が何をしなくても自然と顧客情報が蓄積されて行く仕組みが出来上がる。

そして、これはあまり知られていないことだが、実は予約を入れてくれないお客様からも重要な情報が頂ける。これがインターネット予約で、これについては読者が考えてくれればすぐ分かることなので述べないが、この集められたデータはイールド・マネジメントやレベニュー・マネジメントの重要なキーとして各ゴルフ場で活用されている。これらの情報をポータルサイト運営会社に蓄積させながら、あまつさえ、その売上金額の十パーセント近くを送客料として支払っている。これでは営業力と言う筋肉をそぎ落とし、思考を停止し、いつか廃人になってしまう麻薬中毒患者と言われても仕方ない。

私達はその線に気づいたのは偶然であった。それが古代のインターネット網で日本全国に張りめぐらせられている正に国土の根幹であったことを知る人は少ない。

前段でも述べたが、昭和五十五年秋、当時三十三歳の私は翌年六月に発表する予定のスライド映画の脚本づくりを熱中していた。街を形づくる精神的な骨組みがないかと探し始めていた頃だった。古くから伝わる郷土のまつり「ヤンサ祭り・磯下り」の起点となる静神社とその神輿が到達して清められる白亜紀層の中にある聖なる護摩壇石の道程を訪ねてみよう、勝田青年会議所のメンバー五、六人が食堂に集まった。そこで地図を広げ約八里と言われる道のりを確かめていると静神社と護摩壇石を結ぶ直線上に規則正しく幾つかの神社があることに気づいた。

「それは伊勢と淡路を結ぶ太陽の道と同じ角度だ」とカメラマンの及川さんが言う。数日前にNHKのスペシャル番組で冬至の日の出の方角に一直線に神社や遺跡があることをプロデューサーが発見して番組として放送していたと言う。その時は何故なのか解らなかったが、いずれ解るだろうと「太陽の樹」と名づけ山から海へ向かう道路を幹にして横に走る道路を枝にして四十八ヶ村の村を花とした太陽の樹を脚本の骨組みにし、スライド映画のタイトルを「海と神々と太陽の大地」とすることにした。

その後、そのプロデューサーが書いた「太陽の道」という題名の本を読んだことがあるが、それは大和朝廷が渡来人の集団に日本国土の測量をさせた跡ではないかとのことだった。そして、その測量技師たちの集団は日置とか日向とか伊勢とかの地名を各地に残していることが痕跡としてあることを述べていた。

私達の身近に点在する神社が国づくりの基点であった事、それを基点に風土記が書かれ、気候風土にあった個人的な地域づくりが行われようとしていた事を私達は誇りにしなければならぬ。金太郎飴のように日本中に同じような街づくりを進めている現在の行政やデベロッパーは先人の深い英知に気づくべきではないだろうか。

二十年來の謎であったその鉄道沿線に出向き、ゴルフ場基幹システムとインターネット予約の連動をする仕事をしながら、私は古代の人々と対話が出来たことを現代のインターネットに感謝しているこのごろである。

平成十六年八月記